

十五所遺跡

一般国道52号（甲西道路）改築工事

に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

中部横断自動車道建設工事

1995. 3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局

序

十五所遺跡は、甲府盆地西部の山梨県中巨摩郡柳形町に所在し柳形山を望む御動使川の大扇状地に位置しております。本遺跡の発掘調査は中部横断自動車道の建設工事に伴い平成6年度から実施され、平成7年度で調査が完了する予定であります。この報告書は、平成6年度分の発掘調査の概報であります。

今回の調査では、遺構としては弥生時代後期の方形周溝墓7基と古墳時代前期の住居跡2基、遺物としてはそれらの遺構から出土した土器類が発見されました。とくに陝西地域では明確に方形周溝墓が確認されたのは十五所遺跡が初めてのことと、この地域での弥生時代の社会や墓制を考える上で貴重な資料になると思われます。また十五所遺跡の南側に位置する村前東遺跡でも、ほぼ同時期の遺構・遺物が多量に発見されており、ともに陝西地域の弥生文化研究の基礎となる資料となるであります。

いずれは、今年度と来年度の発掘調査の成果も一冊の報告書にまとめられる予定であります
が、この調査概報も多くの方々の研究の一助になれば幸甚であります。

末筆ながら、種々ご協力を賜りました関係機関各位、地元の方々並びに、整理に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

1995年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚 初重

目 次

1. 調査の経過
2. 遺跡をとりまく環境
3. 発見された遺構と遺物
4. まとめ

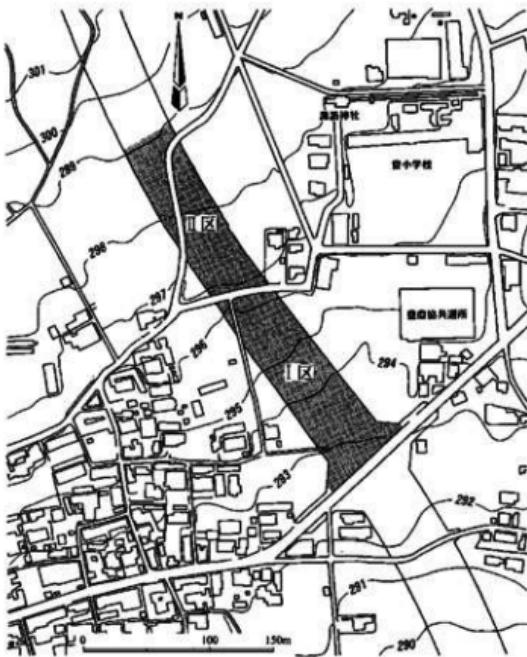
例 言

1. 本書は1994年度（平成6年度）に実施した山梨県中巨摩郡柳形町十五所に所在する十五所遺跡の発掘調査概報である。
2. 調査は、中部横断自動車道建設に伴う事前調査であり、山梨県教育委員会が日本道路公団より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 本書の執筆・編集は米田明訓・大庭勝がおこなった。
4. 本報告書にかかる出土品・図面・写真などは一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

1. 調査の経過

本遺跡は中部横断自動車道の建設に伴い平成6年度から調査が開始された。調査は県道甲府・櫛形線からその北150mのところを東西へ走る町道までをI区、町道からその北へ約50mのところを北東から南西へ走る町道までの間をII区とした(第1図)。本年度はI区の調査をおこない、調査期間は平成6年5月9日～12月27日で、総調査面積は約13,300平方メートルであった。I区は東西に走る烟かんにより南北に分断されているが、南側半分の第1層(弥生時代後期の包含層及び方形周溝墓群)と北半分の第1層(弥生時代後期の包含層と方形周溝墓群及び古墳時代前期の包含層と住居跡)と第2層(弥生時代中期の包含層)の調査をおこなった。

I区の第1層目の遺構確認面は地表下約2メートル前後と比較的浅く、扇状地の遺跡にあるような地下水が出水する心配もなく調査も順調に進行した。しかし第1層目の遺構確認面と遺構覆土はその識別が極めて困難で遺構プランの検出に多大な労力をかけることとなった。しかし丹念に調査した結果、弥生時代後期の方形周溝墓7基と古墳時代前期の住居跡2基の遺構が発見された。とくに明確な方形周溝墓の検出は本遺跡が峠西地域で初めての例となった。遺物では弥生時代中期及び後期の土器、古墳時代前期の土師器が多数出土している。とくに烟かんより南側の方形周溝墓から出土している土器には完形もしくはそれに近い復元可能な壺や甕、葬送儀礼に使用されたと思われる高さ約15センチ程度、直径約10センチ程度の小形の壺が出土した。一方第2層目の弥生時代中期の層は第1層目の下約40センチにある。そこからは弥生時代中期中葉の土器や焼土跡が確認された。しかしながらその他住居等の遺構は発見できなかつた。



第1図 遺跡調査区

2. 遺跡をとりまく環境

十五所遺跡は甲府盆地西部、御動使川扇状地扇端部の南側の櫛形町に位置し、標高は約290メートルを測る。この御動使川扇状地は櫛形町の北西に位置する白根町から遺跡に向かって広大に展開しており、その規模は日本最大級である。遺跡は扇端部に形成されている北西から南東に向かって伸びるゆるやかな傾斜地に展開している。

本遺跡の周辺には、甲西バイパス建設に伴う平成元年度～平成2年度の試掘調査によって確認された遺跡が点在している。

(第2図)

- 1、七ッ打C遺跡（近世）
- 2、十五所遺跡（弥生、古墳）
- 3、村前東A遺跡（弥生、古墳、平安）
- 4、新居道下遺跡（弥生、古墳、奈良、平安）
- 5、二本柳遺跡（弥生、古墳、平安、中世、近世）
- 6、向河原遺跡（弥生、中世、近世）
- 7、油田遺跡（弥生、古墳、平安）
- 8、中川田遺跡（弥生？、平安、近世）
- 9、大師東丹保遺跡（弥生、古墳、平安、中世、近世）
- 10、宮沢中村遺跡（近世）



第2図 甲西バイパスの遺跡群

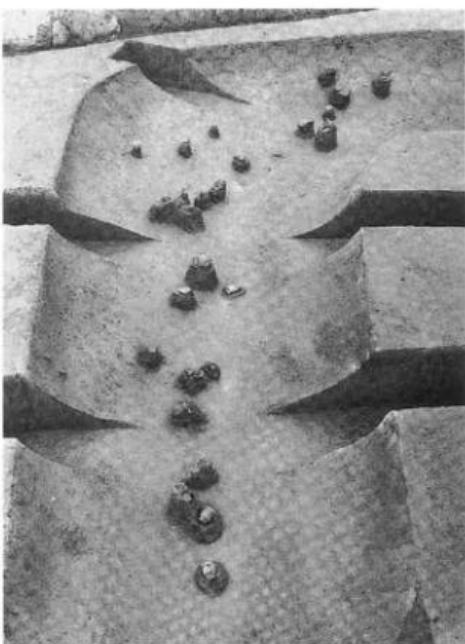
3. 発見された遺構と遺物

今年度の発掘調査では弥生時代後期の方形周溝墓7基、古墳時代前期の住居跡2基が発見された。ここでは主に弥生時代後期の方形周溝墓のうち6号方形周溝墓とその出土遺物を紹介する。6号方形周溝墓は1区の南端に位置し方形周溝墓群の最南にある。各溝の幅は東2.65m、南2.6m、西2.5m、北2.7m、深さは東47cm、南69.5cm、西81.5cm、北54cmである。一辺の長さは東14.5m、南12m、西14.8m、北10.5mで、本遺跡の方形周溝墓では最大の規模をほこる。

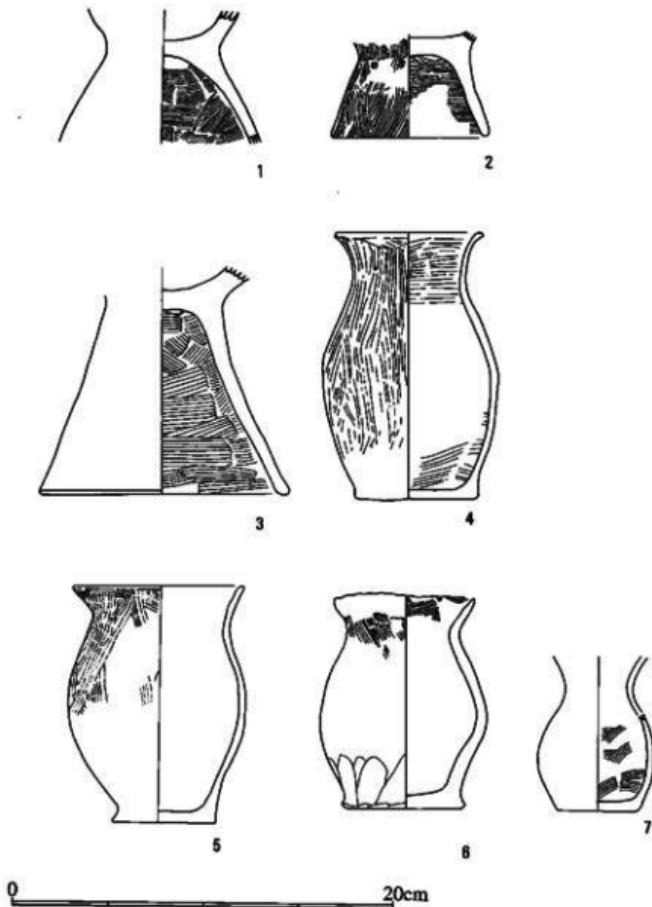
土橋は北東隅に造られている。主体部は検出されておらず、台状部は12.05m×11.5mのほぼ正方形である。溝の立ち上がりはU字状にゆるやかな傾斜で掘られている。出土遺物は土器が主で溝の南西隅と西溝中央部から北西隅に集中して出土している(図版1)。

1・2・3は高杯形土器の脚部である。3は外面にヘラみがき調整がおこなわれ、さらに丹塗りが施されている。内面は刷毛調整がおこなわれている。胎土は緻密で焼成状態はよい。1は砂が若干混ざった緻密な胎土でつくられ焼成状態は良好である。内面に刷毛調整が施される。2は砂混じりの緻密な胎土で焼成は良好である。外面に縦方向の刷毛調整がおこなわれ、内面は横方向の刷毛調整がおこなわれている(第3図1～3)。

4は小型の壺形土器である。高さは14cmで完形で出土している。器形は胴部にふくらみをもつ。外面は口縁部から胴部下半まで刷毛調整が縦方向に、内面は刷毛調整が横方向に器面調整されている。胎土は砂が若干混ざっているものの緻密で、色調は赤褐色、焼成は良好である。また5も4と同様な小型の壺形土器で高さ12.4cm、ほぼ完形で出土している。器形は胴部にふくらみをもっている。外面は口縁部から胴部上半まで刷毛調整である。おそらくはもともと全体的に刷毛調整がおこなわれたと思われるが、表面がよく研磨されていて一部刷毛目が不明瞭である。内面はナデ調整で底部に刷毛痕が残る。色調は赤褐色、焼成は良好で、胎土は緻密である。6は高さ11.1cmの小形壺形土器で胴部下半にふくらみをもつ。外面の口縁部に刷毛調整がおこなわれ、胴部下半にはヘラ削り痕が残る。底部にもヘラ削り痕が残っている。内面は口縁部は刷毛調整が施され、色調は赤褐色で焼成状態はよい。胎土は緻密である。7の壺形土器は高さ7.9cmで胴部下半にふくらみをもつ器形である。外面は全体にヘラ調整で底面も同様である。内面は全体に横方向と斜め方向に刷毛調整が施されている。胎土は小石混じりでありながら、緻密で焼成は良好、色調は赤褐色である。この4つの土器は他の土器と比べても極めて小形である。遺構の性格からおそらく生活に使用された土器と言えよう(第3図4～7)。

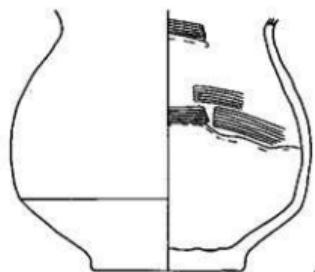


図版1 6号方形周溝墓 南側溝南西隅(東から)

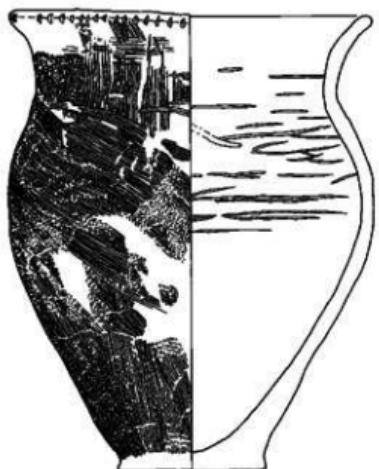


第3図 6号方形周溝墓出土遺物(1) (1/3)

8は臺形土器で、口縁部が欠損している。器形は胴部下半におおきなふくらみをもつ特徴的なものである。外面がほぼ全体的にナデ調整がおこなわれ、底部に木葉痕がある。内面は刷毛調整がおこなわれている。胎土は砂が混ざらない緻密なもので、焼成も良好でしっかりした製品である。色調は赤褐色である。9の甕型土器は高さが24.7cm、胴部上半にふくらみをもつていて特徴的な器形である。外面は口縁部に豆状貼付けが施され、口縁から口頭にかけて縱方向の刷毛調整がおこなわれている。



8



9



0

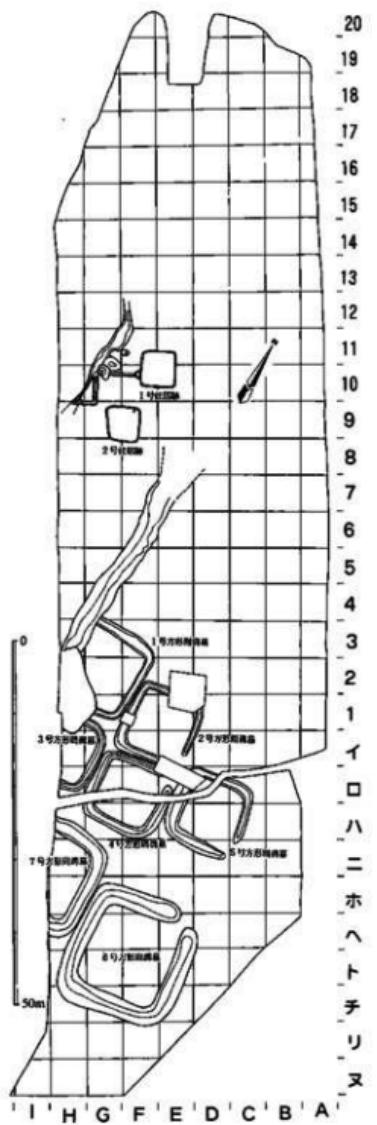
20cm

肩部から胴部にかけては斜め方向の刷毛調整がおこなわれ、胴部下半に縦方向の刷毛調整がおこなわれている。底部には木葉痕がある。内面は口頸部から胴部上半にかけて刷毛調整である。胎土は緻密であり、しっかりした造りである。焼成は良好で、色調は黒褐色を呈する（第4図8・9）。

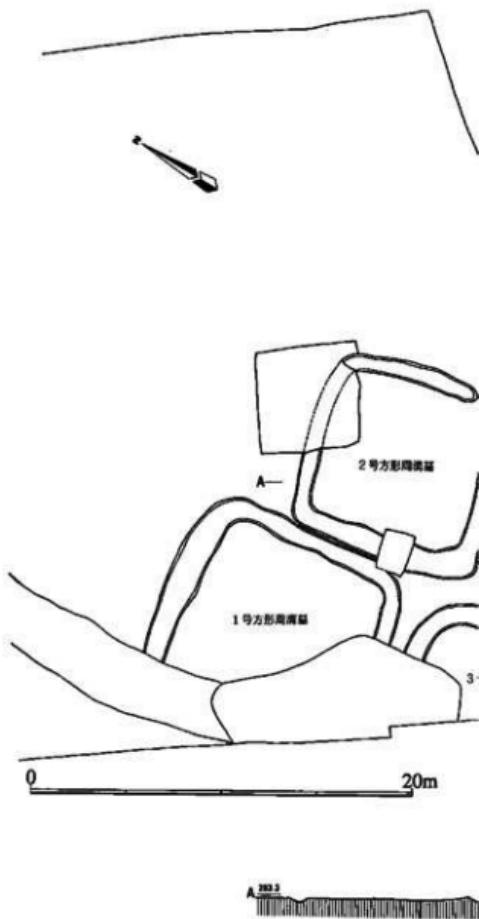
4. まとめ

十五所遺跡では平成6年度の発掘調査により、弥生時代後期の方形周溝墓7基、古墳時代前期の住居跡2基が発掘された。とくに方形周溝墓が確認されたのは、陝西地域が初めてのことであった。多量に出土した弥生時代後期と古墳時代前期の遺物は、この地域での今後の研究における重要な基礎資料となるものであろう。また本遺跡とはほぼ同時代の遺物や集落跡が発見された村前東A遺跡は、本遺跡から南側約200メートルに位置しているが、両遺跡の資料の検討によりこの地域の弥生時代から古墳時代にかけての状況が明らかになる可能性がある。今後の平成7年度の発掘調査と整理作業によって得られる新しい成果に期待したい。

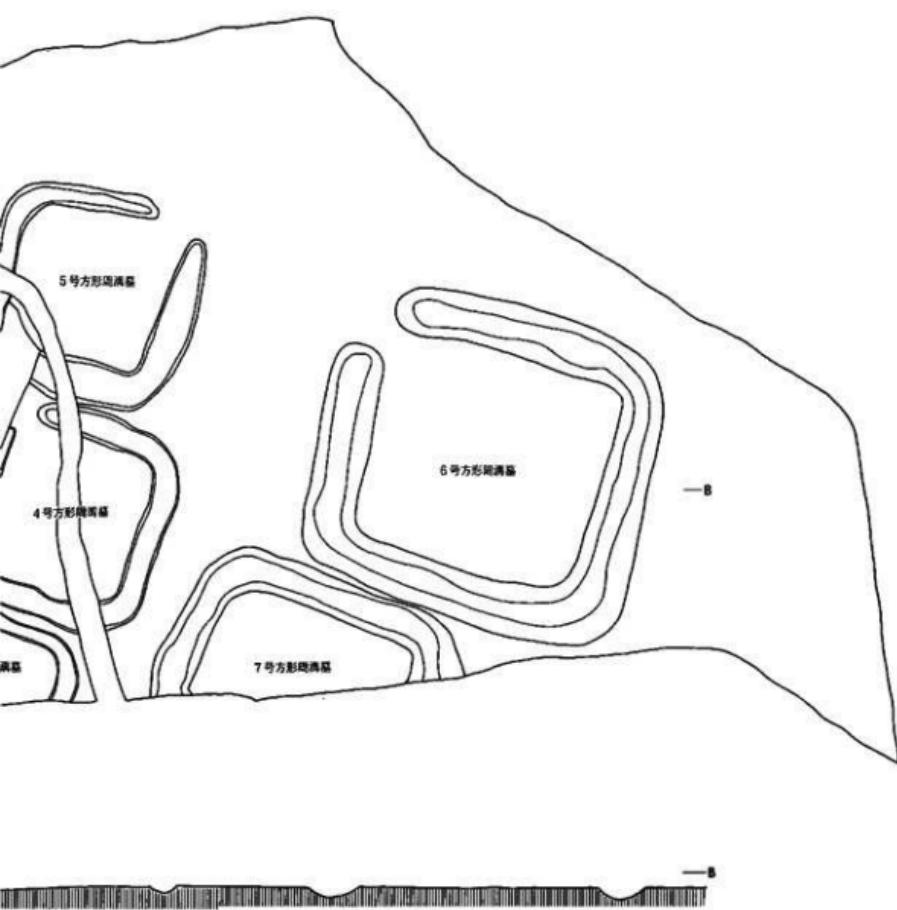
第4図 6号方形周溝墓出土遺物(2) (1/3)



第5図 I区全体図 (1/800)



第6図



方形周溝墓群全体図 (1/300)



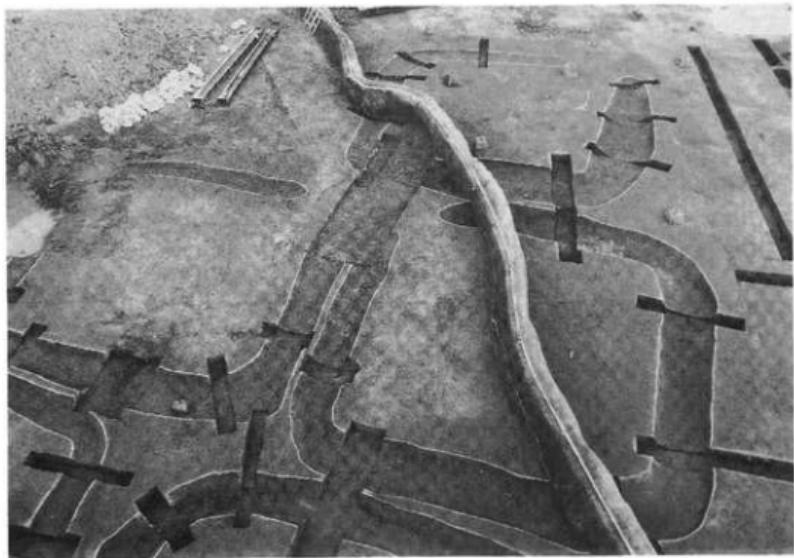
図版2 1～5号方形周溝墓航空写真



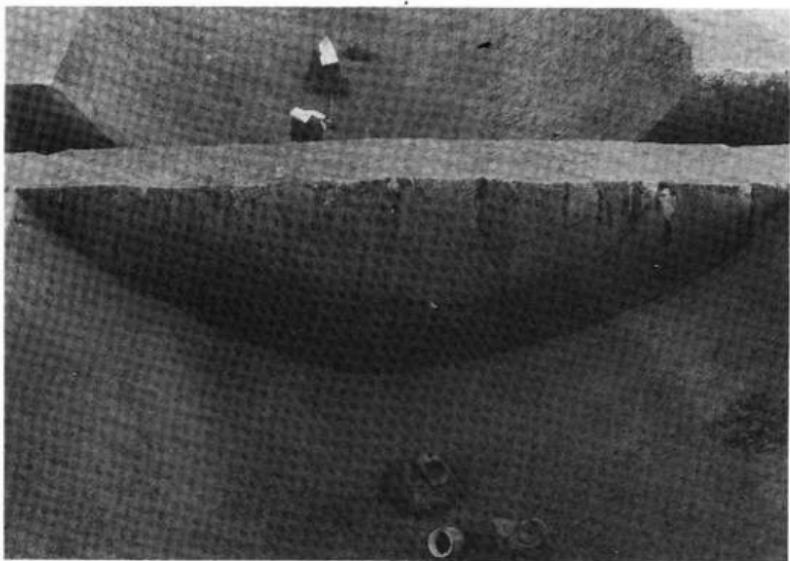
図版3 4～7号方形周溝墓航空写真



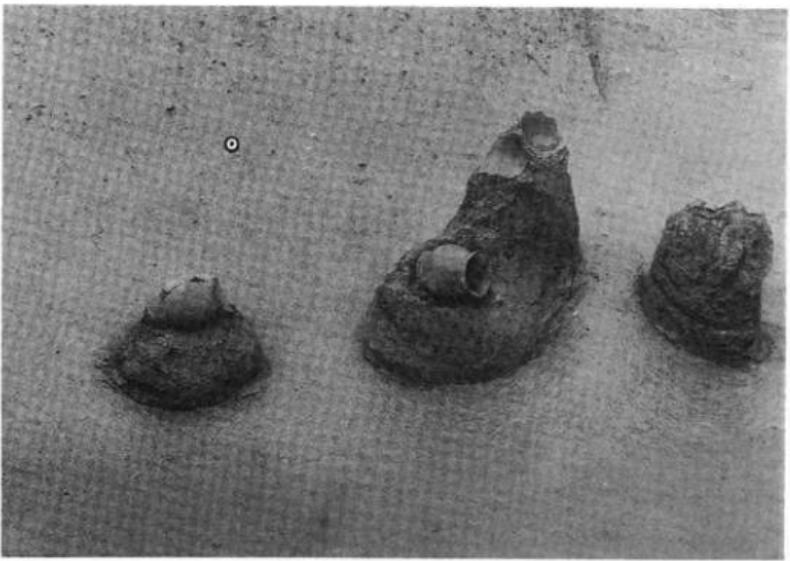
図版4 4~7号方形周溝墓航空写真（北から）



図版5 1~5号方形周溝墓航空写真（西から）

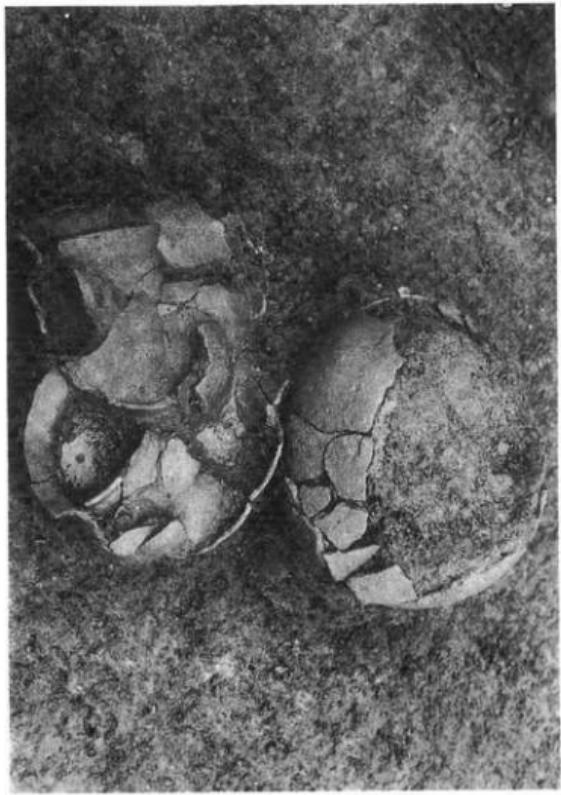


図版6 6号方形周溝墓南側溝セクション（西から）

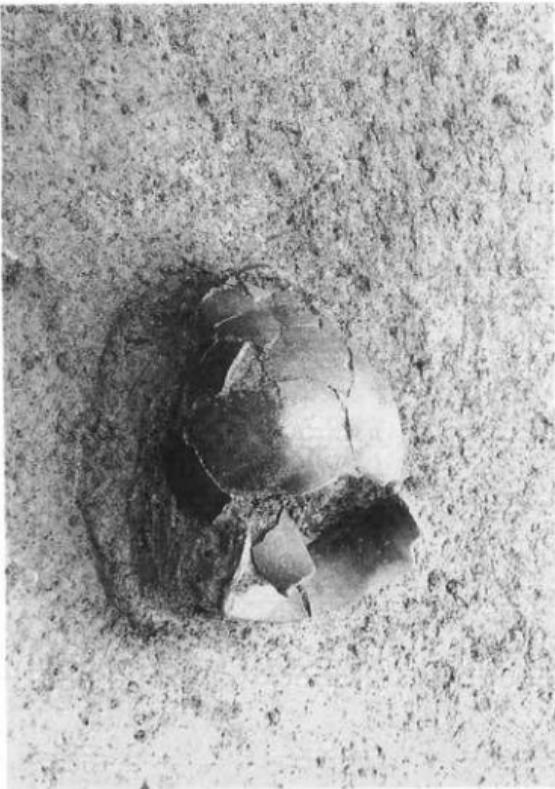


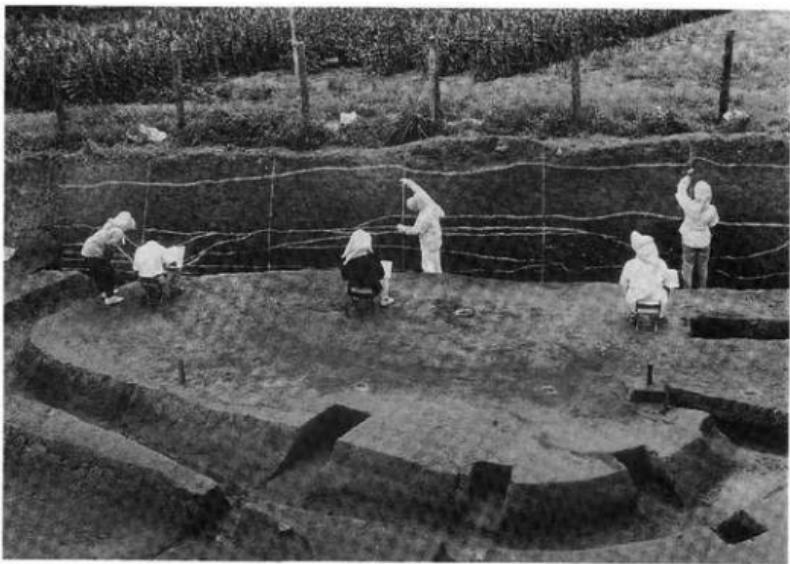
図版7 6号方形周溝墓出土遺物(1)

圖版 9 7號方形圓溝墓出土遺物



圖版 8 6號方形圓溝墓出土遺物(2)





図版10 西側セクション実測風景



図版11 6号方形周溝墓作業風景

調査組織

調査主体	山梨県教育委員会
調査機関	山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者	米田明訓（山梨県埋蔵文化財センター副主査文化財主事） 大庭 勝（山梨県埋蔵文化財センター文化財主事）
作業員・整理員	秋山松義、雨宮みつ枝、有泉誠子、石原敬子、井上千恵子、遠藤正美、大法ひろ子、大法正悟、小野一光、小野幸江、小沢和樹、河西 恵、風間郁子、木下和子、功刀とよ子、斎藤玲子、板井美代子、佐久間春江、佐久間等、沢登郁江、沢登五恵、沢登よね、島津志ず枝、島津忠義、清水正宏、清水千三、志村むづみ、田中市平、塚田ひろ子、都築いつみ、時田わか、中込慎也、中込真一、中込ともゑ、中込久子、中込二三子、中込みつえ、二宮明雄、花輪壽枝、花輪操、原伊津子、深沢一也、北条貴人、望月重哉、望月祐子
協力者・機関	櫛形町教育委員会

報告書概要

フリガナ	ジュウゴショイセキ	
書名	十五所遺跡	
副題	一般国道52号改築工事・中部横断自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報	
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第104集	
著者名	米田明訓・大庭 勝	
発行者	山梨県教育委員会・建設省甲府工事事務所・日本道路公団東京第二建設局	
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター	
住所・電話	〒400-15 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL 0552-66-3881	
印刷所	株式会社 少羅民社	
印刷日・発行日	平成7年3月27日・平成7年3月31日	
十五所遺跡	所在地	山梨県中巨摩郡櫛形町十五所
	25000分の1 地名・位置・標高	小笠原 北緯35°37'06" 東経138°28'50" 標高約290m
概要	主な時代	弥生時代中期中葉～後期後半、古墳時代前期
	主な遺構	方形周溝墓、住居跡、土坑、溝跡
	主な遺物	弥生土器、土師器、石器
	特殊遺構	なし
	特殊遺物	なし
	調査期間	平成6年5月9日～平成6年12月27日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第104集

1995年3月27日 印刷

1995年3月31日 発行

十五所遺跡

編集 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根923
TEL 0552-66-3881
発行 山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局
印刷 株式会社 少国民社

